

2008年12月15日

◆帆苅謙治委員 基幹水利施設ストックマネジメント事業についてお聞きしたいと思えます。これは次回にじっくり質問させてもらいますが、県全体で、すべての土地改良施設を更新する場合に1兆4,000億円くらいを要するという事です。これは資産といえば資産だけれども、大変金のかかる資産であると思っております。国はこの事業において小規模の施設を対象にしようとしているという話があるやに聞いておりますが、その辺について教えてください。

◎農地建設課長 現在は100町歩の受益を持つ基幹施設が対象になっておりまして、団体営クラスの小規模の施設は対象になっておりません。これを踏まえまして、国では団体営クラスも対象になる事業を新しく立ち上げると聞いております。

◆帆苅謙治委員 具体的な動きがあれば、また細かく御説明を願いたいと思えます。

それで、1兆4,000億円ですから、逆に言えば金のかかる子供を持っているのだという考えもあります。延命措置ですから、新規にどんどんやるわけにはいかない。我々みたいに年を取った者にこう薬を張るようなものだと思いますけれども、はっきり言って、だんだん金がかかってきます。ほ場も大事だ、あれも大事だと言いながら農地行政を圧迫してくる。これがこれからの一番のネックだと思います。私は農林水産部にも話をしましたけれども、新潟県は農業が基幹産業なのだと言いながら、知事、副知事等々も新潟県としてそれが一番いい方向性なのだと言いながら予算付けがままならないということであれば、やはりみんなで協力をしていかなければならないと思っております。このストックマネジメント事業の維持管理費について、今後、我々も協力をしますけれども、別枠の予算にしていくように、私はそういう考えを持つ一人ですが、そのような要望がもっとどうにかならないのかと思えます。そうしてもらえれば一番いいという答弁なのだろうけれども、実際どうなのですか。

◎農地部長 委員御指摘のとおり、基幹水利施設ストックマネジメント事業は既存の施設をいかに機能を維持し、また長く使うかという観点で非常に重要な事業だと思っております。これは我々農地部サイドのみならず、公共施設を管理している部門、皆同じ立場だと思っております。農地部のみならず公共関係すべて同じように予算の厳しい中でございますが、今後の施設がどうあるべきかは検討すべき課題であります。関係部局とも相談しながら、今後の

対応について、できるだけ予算を確保できるように、また委員の皆様方の御協力を頂ければ幸いと思います。

◆帆苅謙治委員 これは本当に笑い事ではない大きな事業なので、ここにおられる方々、各会派の方々もおられますが、やはり会派の重要課題として取り上げて、竹山委員、宮崎委員、石塚委員もおられますし、松川委員、中川委員もおられますが、取り上げていく方法があるのではないかと考えています。我が自由民主党も政務調査会を中心にして、この問題を取り上げていく。そうでないと、ほ場整備が大事だとか、何が大事だとか言ったって、毎年毎年3パーセントカットみたいなことを言って、ピーク時から見れば事業費が4割ぐらいになっているでしょう。今は600億円ぐらいでしょう。事業費がピーク時から見ると4割になっている。こういうことでは何にもできないということになるので、何とか皆さんからも頑張ってくださいたいし、我々も頑張っていかなければならないと考えております。よろしくお願いいたします。

もう1点、維持管理が容易ではないのです。土木部もそうです。例えば道路を直す。全くどうしようもない草刈りをする。年1回しかできない。そういった維持管理が非常に大変です。そのような中で、維持管理費が10億円程度ですか。そして、土地改良施設維持管理適正化事業というものがあるようでございます。それが、1地区当たりの事業費が200万円以下になればだめなのだと。200万円以下であれば、今度は土地改良区の方をお願いしたりということになるのだと思いますが、土木部では、けしかけるわけではございませんが、土木施設等環境整備対策事業費というものを持っているのです。10億円持っているのです。例えば機械が止まるとか、何かあったときに応急措置をするのに金がかかるわけでしょう。その金の出所はないのでしょうか。言葉は悪いのですが、かき集めて何とか対応するとか、メーカーに年越しに借金をするなんてことはしないのでしょうかけれども、そういうことだつてやらざるをえない局面もあるのでしょうか。そういうことからすれば、土木施設等環境整備対策事業費のようなものを別枠で要求するような方法はないのかと考えております。唐突な話ですけれども、土木部の場合は10億円あって、例えば道路に穴が開いたとか、そういう緊急時に使える金があるはずですよ。こういうものが農地部にもあればいいと思います。3億円でも5億円でも予算規模に応じて、そういう方法があるのではないかと考えております。今まで、そういう緊急的な場合にはどういう金で対応してきたのか。また、予備費があるのか。土木施設等環境整備対策事業費のようなものがあるのか。金の話ばかりして申し訳ございませんけれども、我々も応援しますけれども、今後そういうものを要求する気持ちがあるのかを伺って終わります。

◎農地建設課長 現在、農地部では土木施設等環境整備対策事業費のようなものはないと承知しております。実際、何か突発的な事故があった場合は、緊急性を考えまして流用するという手法で処理しているという状況がございます。今年もそういう事態が何件かございました。実は今、そういう部分でも保全計画等を作っておりまして、今後、予算の推移状況を見ながら検討してまいりたいと思っております。

◆帆苅謙治委員 流用されると流用された課が困るのです。それと、流用するということは他の事業の妨げになるということもあるだろうし、幾らでもなければいいですけども、どの程度費用がかかるのかによって、その事業を食っていくようなことになりかねないと思うのです。その辺を精査して、やはり言うべきことは申し上げるべきです。また、実態を我々にも教えていただきたい。こういうことを言うと大変でしょうから答弁は求めませんが、よろしく願いをして終わります。